

古都鎌倉の切通しにおける境界性に関する研究
—近世紀行文に着目して—

A Study on the Boundary of Kiritoshi in the Ancient Capital of Kamakura
-The Analysis of travelogues in early modern-

○木皿圭亮¹, 横内憲久², 岡田智秀³, 押田佳子³

*Keisuke Kisara¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada³, Keiko Oshida³

Abstract: This aims to clarify the boundary of Asahina Kiritoshi to find of the significance for the ancient capital tourism in Kamakura. As a result, the boundary was caused by the steep geographical features, for example, a narrow and mud path, high place, and so on. In conclusion, this valuation is not only the border of 2 areas but also the experience of tourism, and then, we could estimate the common resource of the ancient capital tourism.

1. 背景および目的—鎌倉は南方を海, 残りの三方を山で囲まれかつ地形の起伏を活かした自然要塞都市といわれている^[1]. そうした鎌倉への出入口として近世までは, 鎌倉七切通し(以下, 鎌倉七口)に代表される切通しが用いられ, 古都鎌倉の内外を隔てる境界として機能した. 鎌倉七口のうち朝比奈切通しなど現存する5つについては, 中世の土木遺産であることより世界文化遺産候補に挙げられ, 注目されている^[2]. しかしながら, 現在における切通しは, 「現存する古都時代の遺産」という存在価値のみに重点が置かれているが, 本来有した「境界性」を合わせて初めて切通しの観光的

意義が見出されると考える.

そこで本研究では, 古都鎌倉の観光資源として切通しの観光的意義を再確認することを目的とし, 近世観光における切通しの「境界性」の実態を明らかにするものである.

2. 研究方法—近世(江戸時代)に記された紀行文 21 文献^[3]を対象に読み取り調査を行い, 切通しに関する記述を抽出する. 対象文献を Table 1 に示す.

3. 近世紀行文における切通しの記載状況—紀行文における切通しの記載状況を Table 1 に, 鎌倉七口の分布を Figure 1 に示す. Table 1 より, 21 文献中 17 文献

Table 1. The record of Kiritoshi from travelogues in Edo era

文献番号	文献名	著者	刊行年	鎌倉七切通し(鎌倉七口)							その他の切通し							合計		
				朝比奈切通し	巨福呂坂切通し	化粧坂切通し	極楽寺坂切通し	名越切通し	大仏坂切通し	亀ヶ谷坂切通し	小坪切通し	釈迦堂口切通し	稲荷坂切通し	池子切通し	地藏坂切通し	山ノ内切通し	大倉切通し		称名寺の切通し	稲村ヶ崎切通し
1	丙辰紀行	林道春	1616	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0	
2	鎌倉順礼記	沢庵宗彭	1633	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0	
3	東海道名所記	浅井了意	1658	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	2	
4	鎌倉日記	徳川光圀	1674	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	12	
5	鎌倉紀	自住軒一器子	1680	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	5	
6	東海済勝記	三浦汪齋	1762	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1	
7	東路の日記	著者未詳	1767	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	3	
8	草まくらの日記	本居大平	1773	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0	
9	山東遊覧志	江戸隠士葛郭	1779	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	10	
10	相中紀行	田良道子明甫	1797	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	8	
11	三浦紀行	一鶴堂白英	1801	×	×	×	▲	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	▲	2
12	江の島	大島完来	1805	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	2	
13	鎌倉日記	扇雀亭陶枝	1809	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1	
14	二階堂の記	山東京山	1821	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0	
15	江の島の記	菊池民子	1821	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1	
16	鎌倉日記	祖祐	1830年頃	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	3	
17	箱根山七温泉江之島鎌倉廻金草鞋	十返舎一九	1833	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	5	
18	鎌倉御覽日記	小山田与清	1835	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	2	
19	江の島紀行	李院	1855	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	3	
20	塵壺	河井継之助	1859	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1	
21	東海紀行	小田切日新	1859	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	5	
合計				14	11	9	7	5	5	3	4	2	1	1	1	1	1	1	0	66

【凡例】○記載有り, ×記載無し, ▲極楽寺坂切通しまたは稲村ヶ崎切通しのどちらかが記載(記載が不明確)

1: 日大理工・学部・交通 2: 日大理工・教員・建築 3: 日大理工・教員・交通

Table 2. Notes of Asahina Kiritoshi from travelogues in Edo era

番号	文献名(刊行年)	朝比奈切通しに関する記載	空間特性	境界性
3	東海道名所記(1658年)	かうべ塚を過ぬれば、 金沢口 に出る也。	—	—
4	鎌倉日記〔徳川光圀歴覧記〕(1674年)	爰ヲ過テ 大切通シ 、 小切通シ トテニツ有り。朝夷奈義ガ一夜二切又キタルト云也。六浦ヨリ鎌倉ヘノ入口也。上総介ガ石塔トテ 大切通ト小切通ト ノ間、南ノ方ノ田ノ中ニアリ。此所ヲ過テ海道ノ西北ノ方ヲ牛房谷ト云。首塚ト云モ爰ニアリ。	—	・鎌倉への入口。
5	鎌倉紀(1680年)	ゆく道物語にたがはず巻里程行て 切通シ 有。高さ十丈余の石を切ぬき、通るはゞは二足通りもなし。廿間あまり過て腰をかけ石有。(略)爰より鎌倉の内なり。	・石を切り抜いている。 ・通る幅が狭い。	・ここから鎌倉の内。
7	東路の日記(1767年)	こゝより又山路にさしかゝりてむさしさがみのさかひをこえ 朝夷那のきりどほ してふ所にいたりぬ。(略)いみじう心ほそき道の山間にて、岩さへおほひかゝれるにてぞ有ける。所々よりわきいづる岩間の清水の、後はひとつにながれ落ちて音はすさまじきまでに聞えて、行んとする道は山川といへるにてや侍らんと思ふに人のかよひぢなり。	・山間の心細い道。 ・岩が多い。 ・湧水が流れ音がすさまじい。	・武蔵・相模の境。
9	山東遊覧志(1779年)	○鎌倉七口○名越切通○ 朝夷名切通 (略)	—	—
10	相中紀行(1797年)	是より東の方ハ大蔵村にして 朝夷奈切通 までハ金沢海道也。此地蔵堂の前より峠を越て金沢へ行也。此坂を 朝夷奈切通 と云、大切通・小切通とてニツ有。(略)又切通へ登る坂の左の方ニ岩間より湧出る清水有、是を梶原が太刀洗の水といふ、城ハ平三景時広常を討し時太刀を洗ひたる水ゆへかくいへるかと也。此辺ニ広常が宅有たるなるべし。(略)切通を下りて道の北の岩尾に大なる地蔵を切付て有。是より西は相州、東ハ武州也、相武の境に在るを以て境の地蔵と名く。(略)	・二岩間より湧出る清水有、是を梶原が太刀洗の水といふ。	・是より西は相州、東ハ武州。 ・相武の境に在るを以て境の地蔵と名く。
12	江の島(1805年)	朝夷名切通 竜胆や山骨かくす蔓もなし 秋寒し足もよりの草清水	・岩を被う草がない。 ・足もとから水が湧き出ている。	—
15	江の島の記(1821年)	鎌倉にとてゆくゆく 朝比奈の切通し といへる所にいたる。岩がねのこゝしきをきりとほしたるにて、峻嶽しき道なりけり。ゆきなやみつゝもたどりてしばしいこひ、ひるげなど物して、こゝより案内の人をたのみて八幡の大御神のみやしるにまうづ。(略)	・岩を切り通した。 ・険しい道。	・ここから八幡宮までの案内人を頼む。
16	鎌倉日記(1830年頃)	朝比奈の切通し を打越んと、峠の茶店に一同労を休。アハウト峠の息や玉の汗	・峠。	—
17	箱根山七温泉江之島鎌倉廻 金草鞋(1833年)	それよりかなざはにいたるに、大くらにいでて、(略)うたのはしをすぎて、 あさひなのきりどほ にいたる。このさき、じじう川をすぎて、てるてひめみがりはりのくわんおんあり。かまくらよりきりどほしまで一り、これよりかなざはへり。[狂]あさひなのちからならねとたひ人もひけるかすみをきりとほしむち	—	・金沢にいたる。 ・鎌倉と金沢の中間にある。
18	鎌倉御覧日記(1835年)	さて 朝夷の切通し を経て杉本の観音堂(略)	—	—
19	江の島紀行(1855年)	院内に宝物あまたあり。 朝比奈の切通し をのほりて、浄善寺・極楽寺へまいる。(略)程なく支度茶屋とて三軒あり。	—	—
20	塵壺(1859年)	直に鎌倉に至る。道、 あさひな切通し と歟、岩を切抜し処、所々にあり。高さ十間余りもあらん。南一方は海迄開ケども、あとは何れも狭隘の道、険を設るためならん。	・岩を切り抜いている。 ・高さ十間余り。 ・狭く険しい。	・直に鎌倉に至る。
21	東海紀行(1859年)	武相界于此、 朝夷奈洞道 截岩為之略	・岩道で歩きにくい。	・武蔵・相模の境。

※文献番号は Table 1 に準ずる。 ※※下線部は全て朝比奈切通しを示す。 ※※※一印：該当無し



Figure 1. The distribution of the Nana-Kiritoshi

において 16 の切通しが抽出された。このうち 14 件と最も記述の多い朝比奈切通しと、11 件の巨福呂坂切通しは、近世全体を通じて記述される傾向がみられた。

また、鎌倉七口は他の切通しに比べ多く書かれる傾向がみられた。「4. 鎌倉日記」や「9. 山東遊覧志」など鎌倉七口の過半を巡る、切通しそのものを観光対象としたものは 6 文献みられ、このような記載が 18 世紀ごろまでの近世鎌倉観光の発展途上の段階^[4]において、多い傾向を捉えた。

4. 朝比奈切通しが有す境界性—朝比奈切通しについて Table 2 をみると、朝比奈切通しの特徴は「空間特性」と「境界性」に分類でき、空間特性は 8 文献で 15 件みられ、「岩・石を切り抜いた」「幅が狭い」「険しい」「足もとから水が湧き出ている(湧水)」などが抽出された。

境界性は 8 文献で 10 件みられ、「鎌倉への入口」「金沢(武蔵)・鎌倉(相模)との境界」の 2 種類が抽出された。空間特性において「狭い」「険しい」を記した文献では、境界性に関する記述が多くみられた。朝比奈切通しは標高約 90m、全長約 1.5km と鎌倉七口の中で最高・最長と地形条件の厳しい難所であるため^{[2][4]}、旅行者たちが後に到着する観光地への期待感から境界性が見出されたと考えられる。

5. まとめ—本稿では、近世紀行文 21 文献の読み取りより、朝比奈切通しが持つ「幅が狭い」「足もとから水が出る」「険しい」といった厳しい空間特性が、金沢—鎌倉間における境界性を担保することを捉えた。

これは、単に地理的な境界としてではなく、当時の旅行者が切通しを体験することで得たによるものであるといえる。このことより、切通しの観光的意義は史実に基づく存在価値に留まらず、古都観光における観光体験の共有資源として位置付けることが出来るであろう。

6. 参考文献

- [1] 松尾剛次:「中世都市鎌倉を歩く」,中央公論新社, pp. 4-15, 1999.
- [2] 鎌倉市:鎌倉市 HP http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/sekaiisan/index_02.html, 2012.
- [3] 鎌倉市:「鎌倉市史近世近代紀行地誌編」,吉川弘文館, 1985.
- [4] 押田佳子・横内憲久・岡田智秀・瀬畑尚紘:「紀行文より捉えた近世鎌倉における観光経路および滞在拠点の成立過程に関する研究」,ランドスケープ研究 74(5), pp. 431-436, 2011.